

闘わなければ生き抜けない

～取材から見えてきた非正規春闘～

2023/10/31 毎日新聞社会部 東海林智

▽コロナ禍で生活に困窮したのは誰か

- ・大きなくくりで言えば、女性と高齢者、雇用の不安定な非正規労働者（自営業者、フリーランサーを含む）
- ・実はいつもそこにある困窮（貧困）→生存権を脅かされるような状況でありながら、普段はその不安定さ困窮が覆い隠されている→コロナで顕在化した
- ・コロナに限らず、リーマンショックでも派遣村として表面化した困窮
- ・1995年新時代の日本的経営による非正規の拡大が根本の原因

▽女性の生活困窮

- ・女性の約半数以上が**非正規雇用**で働く現状（20年で54・4%、男22%）
- ・**シングルマザー**の多くは子供を抱え非正規で働かざるを得ない→元々正社員で働きシングルになったケース以外では、正規の仕事を新規に見つけるのは困難
- ・人手不足と言いながら若年者で正社員に就くのは実は容易ではない
- ・子育てを終え、キャリアを再開させる女性は非正規の仕事に→**個人請負化**も進む（ヤクルトレディ）、**個別能力（経理など）のフリーランサー化**

★【20代女性のケース】

- ・入り口は「**闇の職安**」→20代の女性**派遣労働者**→スーパーの試食販売（いわゆるマネキン）など派遣で働く→コロナの緊急事態宣言で間然に仕事がなくなり（試食販売の中止）、埼玉県内のアパートの家賃5・4万円が払えなくなる→住宅管理会社が追い出し→「高収入」「即金」でスマホで仕事を検索→「闇の職安」（**闇バイト**）→紹介された仕事は特殊詐欺の受け子
- ・詐欺に遭った人からの現金回収→捕まるリスクが一番高い仕事→だが、報酬は回収した額の●%に過ぎない→手口は……。
- ・【**闇バイトの不条理は非正規労働者の処遇と重なる**】＝ポイント＝
- ・**闇バイトは多重下請け構造**→親（詐欺グループ本体）→企画、設営、営業、実働部隊→実働部隊は→暴力団に下請け（40%）→孫請け、ひ孫請け→闇の職安→受け子
- ・下に行くほど、リスク（捕まる可能性）が高く、けれど中抜きでもうけは少ない
- ・非正規労働者も下請け構造や派遣などでピンハネされ続ける→雇用の調整弁として使われ、失業のリスクが高いのに→低賃金を強いられている→しかし、**不**

安定さ（リスク）を考慮した賃金であるべき→つまり、正社員よりリスクが高い分だけ時給単価は高くしてしかるべき→最賃ではなく高い単価なら「多様な働き方」の一つの選択肢にもなる→新時代の日本的経営はそうした発想はなく、ただただ、必要な時だけ安く使うため非正規を増やして行った

★【シングルマザーのケース】

- ・クロネコヤマトがメール便業務を JP に移管する→個人請負で配達していた人の契約を打ち切り→かつ、クロネコの直雇用で働いていたメール便などの仕分けの労働者約 3000 人も仕事を失うことに（宅配便の仕分けと違う職種）
- ・シングルマザーなど女性が多い仕事→20時から25時や27時～6時など深夜帯に短時間勤務（深夜割り増しなど手当の分、最賃より手取り多い）。それらの人が仕事を失う。彼女らの多くは無期転換しているが、当初、何事もないように仕事が終了すると告げられた→しかし、無期転換した者をそんなに簡単には切れない→労働者が組合作ったら→「整理解雇でなく、あくまでお願いベース」とトーンダウン
- ・ある女性は13～19時に精密機械工場パートで働き、20時～25時はヤマトで働くダブルワークだった。
- ・健康飲料の訪問販売の女性→小学校に入学したての娘と二人暮らし→個人請負で働き、コロナ禍に収入が減少し心中を企図した
- ・健康飲料販売レディを例に出したが、非正規や個人請負の脆弱性が良く分かる例。だが、コロナだから貧しいのではなく、**コロナ下でなくとも、ダブルワーク、トリプルワークでどうにか生活できている現実。**

▽高齢者の生活困窮

- ・**年金だけでは食べていけない高齢者**が、生きるために働かねばならない現実があり、コロナ禍で仕事を失った高齢者の困窮もひどかった。弁護士や労組が実施したコロナの困窮相談では70代以上が最多の33%を占め、次いで60代、50代となっている。70代や80代でもビルメンテナンスや清掃、マンション管理人などの仕事で収入を得ている。重労働を、**生きるために必死で働いている**→その仕事も、コロナにオフィス閉鎖などの影響で減少、少ない年金に働いた金をプラスして生活していた高齢者収入が途絶え困窮。→「**葬式代まで食べてしまった**」と泣く老女。
- ・受け子になったビルメンの高齢者（72）

▽【理屈に合わない非正規誕生の歴史と背景】

- ・**1995年「新時代の日本的経営」**を当時の日経連（現経団連）が提唱
- ・その中身は、雇用を3つに切り分ける①**長期蓄積能力活用グループ**（いわゆる正社員）②**高度専門能力活用グループ**（専門型派遣、今はやりの言葉ではジョブ型雇用）

③雇用柔軟（流動）グループ（パート、契約などいわゆる非正規労働者）こと

- ・正社員で採用し、定年まで働くという“日本型雇用、との決別を意味した
- ・乱暴に言えば、正社員を減らし、非正規を増やす方針→約20年をかけてその通りに非正規を拡大させて行った
- ・非正規は「不安定で低賃金」で使うと決めた→非正規が大幅に増えた結果として→日本の労働者賃金は低下し、“**安いニッポン**、なった。最賃、実質賃金……どの項目を見ても、**G7など主要国の中では最低レベル**の賃金水準。大差があったはずの韓国にも実質、最賃共に追い抜かれる
- ・安い日本の背景で何があったか→**大企業だけが内部留保（貯金）を大幅に増やす**→非正規は話してきたように、何かあれば生活できないような困窮に陥る
- ・1995年の時点で**少子・高齢化**の流れは明らかだったのに、労働者から**安定した賃金を奪う**ようなことをやった→少子高齢化の加速→人手不足で仕事があっても人がいない状況が現出し始めている→外国人労働者頼みだったはずが、いつまでも**外国人労働者の移民を拒み、人権を蔑ろにするような外国人政策**を続けた結果→円安もあり、安い日本は“**選ばれない国**、となってしまう→人材倒産は目の間
- ・こんな状況の中で、私たちが“**最低賃金を1500円にしろ**”と叫ぶのは、**正義以外のなにものでもない**。
- ・軍事費を二倍にしている金があるなら、最賃1500円など容易に達成できる。→なのに、この国の指導者は未だに実現していない10年以上前の約束、時給1000円を達成するのに大変そうな顔をしている。
- ・新時代の日本的経営が全ての失敗の源。**経団連の政策起案者自身が「やり過ぎた」と震える**ような結果になっている。
- ・**労働力のジャストインタイム**は労働の部品化、商品化を完成させつつある。究極がウーバーやアマゾンに代表される、**非雇用化**（雇用責任から前端的に逃亡する許しがたいシステム）
- ・非正規で言わなければならない、もう一つのこと→非正規は低賃金の代名詞のよう言われるが、正規に比べて不安定な立場（不利な立場）で働くのだから、その**不安定さ（リスク）を考慮した賃金であるべき**。つまり、正社員より単価の高い労働であっておかしくない。そうであれば、“多様な働き方”の一つの選択肢になる。しかし、現状は、最低賃金に近い低賃金で、コロナ禍のように仕事がない状況では、真っ先にクビを切られる**理不尽な地位**を強制されている。

▽ストライキ権の再構築を

【ストなき時代】

- ・厚労省の調査でストライキの実施件数は、1974年の**5197件をピーク**に減少の一途を辿る→81年に1000件を割り→連合結成後、労使協調路線が推進され、さら

に激減し→近年は30件台に→ストなき時代に→特に連合幹部は、「法的権利の行使もありうる」などと述べ、ストの言葉さえ使わない→春闘の会見でも記者にストで迫らないのかと聞かれ「ストは時代送れ」（連合の前前会長古賀伸明）とハナで啾う

【スト戦術の見直し、再構築】

・ロシアのウクライナ侵攻で世界的な物価高騰の流れの中で、欧米では賃上げを求めたストライキが実施された→鉄道、消防、観光地→街角にゴミが山と積まれたフランスの風景→それでも**市民はそれを「迷惑」だとは言わず、権利行使と受け止める**と報道

▽非正規春闘・ストライキ

・非正規春闘（ナショナルセンターの違いを越えたユニオン）の果敢な挑戦→合同ユニオン加盟のたった**1人の組合員のスト**で賃上げ（ABC マートで）→全ての**ABCの非正規賃金の賃上げ**につながる→クリスマスの時期の賃金加給を中止した菓子販売の**会社に抗議のスト（組合員1人）、シフト拒否**（非組の非正規にも呼びかけ）→加給中心の撤回→「**声を上げることと実力行使の重要性**」の認識

・全労連が今春（23）の春闘で「ストライキ戦術」を改めて提起→ストを打てる組合にバージョンアップしようと呼びかけ→**1500以上の組合**がスト権を確立し交渉に臨んだ→**全医労の40年ぶりの全国スト**を始め多くの労組が春闘でストを打ち、スト件数は昨年の**3倍近い約340件**に達した（中身としては時限ストや指名ストなどが中心、厚労省のカウントにはならないケースも）。**ストの打てる組合にすることで組織強化**を図っている

・連合傘下の**そごう・西武百貨店の労組**（UA ゼンセン加盟）が8月31日に池袋本店で約900人の同店組合員が1日のストに突入（大規模百貨店では**阪神百貨店以来61年ぶりのスト**）→ポイントは株式の売却撤回を求めたストではなく、**情報開示を求めたスト**であったこと→そごう・西武は、セブン&アイ HDの子会社（買収された）で、同百貨店の株譲渡はセブン&アイが外資のファンドと交渉→事業会社のそごう・西武と労組は団交を行うも、譲渡に関する情報は何も出てこない→**セブンは「そごう・西武従業員の使用者ではない」と団交に応じず**、売却が表面化してから1年半も情報なし→外資と提携するヨドバシが店のメインを占めれば雇用も危うくなるが、計画すら知らされずには判断できない→**組合員に情報提供を求めてスト権確立を提起**した。

・会社法野改正でHD化など会社組織が複雑化する中、**①団交権が無力化②労使協調路線で会社に「理解」を示しても、自らの雇用すら不透明③耐えて雇用を守るのか闘って雇用を守るのか**が問われる

・ストの現場や会見に上部団体のUAは現れず→**UA幹部は「最後までスト回避の道を探っていた**」と言う→回避の立場で動いた者がスト通告の会見には出られないと→スト通告には高島屋や三越・伊勢丹など他の百貨店労組の委員長が同席、連帯を示した→**UA**

の組織拡大は「全労連や全労協が組合を作ったら会社潰れますよ。私たちが（ストなど打たない）安全な組合を作りますから」とアピールしてユシ協定を結ぶのがセオリー→ストを打つ組合は「営業妨害」（UA 幹部）なのだ

・ストの効果→売却阻止できず（しかし、そもそも売却阻止は労組の本音ではあったが、ストの目的ではなかった）→スト権を立てる前の団交では一切出てこなかった**売却に関わる情報が出てくるようになった**→団交への出席を拒否し続けていたセブン&アイの井阪社長を始め、**セブン&アイ幹部が団交に出席**した→売却はされたが、新しい株主との交渉で、ストを打ち抜いた組合として相手の労組を見る目も違うし労組の心構えも違ってくる。**今後の雇用維持の闘争が戦いやすくなった**

・ストへの反応は→「**ストは迷惑**」が定番の反応→スト権ストの影響でその意識は強いという**“神話、**→考えて見れば、50年近く前の話、ストを迷惑として体感した世代はどんどん少なくなっているのに、**“神話、を信じる労組の愚かさ**→むしろ、他人の権利に対する不寛容さ（権利意識の浅さ）が大きく影響している

・スト当日の反応→「店が閉まって迷惑だけど、それは1日のこと。これから永久に閉まる迷惑を考えればなんてことはない」（50代主婦）▽「何も知らされず会社が売られるなんてあっては行けない。ストはやむを得ない」（40代男）▽「百貨店の形態が時代遅れなんじゃないの（ストの可否は言わず）」（20代男）||約20人に街頭でインタビューしたが、「**迷惑**」と言ったのは、**60代の女性だけ。多くはストに好意的。**労組のデモには拍手も湧いた

▽私たちは微力ではあっても無力ではない

- ・ 正規、非正規に限らず人間らしい暮らしへの要求を諦めない
- ・ 黙っていても誰も変えてはくれない。**自ら声を上げることでしか変わらない**
- ・ 帯のように連なって社会を変えていく、それが連帯であり労働組合の使命
- ・ ILO（国際労働機関）のフィラデルフィア宣言は「**労働は商品ではない**」と宣言した。私たちは、人間らしい暮らしもできない低賃金で扱われる商品ではない、人としての尊厳をかけて、この状況を打開しよう。**そこに希望があり、そこにしか希望はない。**